

涌 監 第 3 3 号
平成30年8月31日

涌谷町長 大 橋 信 夫 殿

涌谷町監査委員 遠 藤 要之助

同 後 藤 洋 一

平成29年度涌谷町水道事業会計、涌谷町国民健康保険病院事業
会計、涌谷町老人保健施設事業会計及び涌谷町訪問看護ステー
ション事業会計に係る決算審査報告書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された平成29年度
涌谷町水道事業会計決算、平成29年度涌谷町国民健康保険病院事業会計決算、
平成29年度涌谷町老人保健施設事業会計決算及び平成29年度涌谷町訪問看
護ステーション事業会計決算の証書類、報告書、損益計算書、剰余金計算書、
剰余金処分計算書、欠損金処分計算書及び貸借対照表を審査したので、次のと
おり意見を付して提出します。

1 審査の対象

- (1) 平成29年度 涌谷町水道事業会計決算
- (2) 平成29年度 涌谷町国民健康保険病院事業会計決算
- (3) 平成29年度 涌谷町老人保健施設事業会計決算
- (4) 平成29年度 涌谷町訪問看護ステーション事業会計決算

2 審査の期間

平成30年6月6日(水)、7日(木)、11日(月)
実質審査期間 3日間

3 審査の手続

平成30年6月4日、審査に付された平成29年度決算書類及び事業並びに経営状況が適正であるかどうかを審査するため、事業実施状況、財政関係諸帳票、証拠書類等を精査し、必要と思われる諸資料を提出させ、責任者より聴取するとともに、町の監査基準に基づき、下記の点に重点を置き、通常行われる審査手続きで実施した。

4 審査の重点事項

- (1) 水道事業会計
 - ア 給水状況
 - イ 工事の概要
 - ウ 収支の状況
- (2) 国民健康保険病院事業会計
 - ア 患者数の動向
 - イ 収益的収入及び支出
 - ウ 資本的収入及び支出
 - エ 従事職員体制
 - オ 補助金、負担金
 - カ 棚卸し状況
 - キ 備品(医療機器等)の管理状況
- (3) 老人保健施設事業会計
 - ア 利用者の動向
 - イ 収益的収入及び支出
 - ウ 資本的収入及び支出
 - エ 従事職員体制
- (4) 訪問看護ステーション事業会計
 - ア 利用者の動向
 - イ 収益的収入及び支出
 - ウ 従事職員体制

5 審査の結果

(1) 水道事業会計

ア 給水状況

年度末における給水人口は、15,971人（前年度比249人減、1.5%減）で、給水戸数は5,995戸（前年度比1戸増、微増）、年間配水量については、1,563,058 m^3 （前年度比10,382 m^3 減、0.7%減）となり、年間有収水量については、1,323,321 m^3 （前年度比9,315 m^3 減、0.7%減）であったが、有収率は、前年度と同率の84.7%となった。

当年度の1 m^3 当たりの供給単価は、290円03銭（前年度比33銭増）で、1 m^3 当たりの給水原価は、291円40銭（前年度比8円31銭増）となり、供給単価との差額は、1円37銭の赤字供給であった。

○業務量

項目	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	比較	
					増減	増減率(%)
行政区域内人口		16,908人	16,728人	16,485人	△243人	△1.5
年度末給水人口		16,402人	16,220人	15,971人	△249人	△1.5
年度末給水戸数		5,977戸	5,994戸	5,995戸	1戸	0.0
年間配水量		1,594,962 m^3	1,573,440 m^3	1,563,058 m^3	△10,382 m^3	△0.7
年間有収水量		1,350,324 m^3	1,332,636 m^3	1,323,321 m^3	△9,315 m^3	△0.7
有収率		84.7%	84.7%	84.7%	0.0ポイント	—
1日平均配水量		4,358 m^3	4,311 m^3	4,282 m^3	△29 m^3	△0.7
1日平均有収水量		3,689 m^3	3,651 m^3	3,626 m^3	△25 m^3	△0.7
1日最大配水量		5,471 m^3	5,283 m^3	4,971 m^3	△312 m^3	△5.9
新設給水工事		40件	56件	31件	△25件	△44.6

○水道単価及び有収率の推移

項目	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年度との比較
1 供給単価		289円92銭	289円70銭	290円03銭	33銭
2 給水原価		285円00銭	283円09銭	291円40銭	8円31銭
3 1-2 = 差額		4円92銭	6円61銭	△1円37銭	—
4 有収率		84.7%	84.7%	84.7%	0.0ポイント

供給単価	=	$\frac{\text{給水収益}}{\text{有収水量}}$	$\frac{383,807,796\text{円}}{1,323,321\text{m}^3}$	=	290円03銭
給水原価	=	$\frac{\text{総費用}-\text{受託工事費}-\text{特別損失}}{\text{有収水量}}$	$\frac{385,621,113\text{円}}{1,323,321\text{m}^3}$	=	291円40銭

イ 工事の概要

・老朽管更新工事の実施

平成25年度から継続実施されている老朽管更新工事について、当年度において本町地内外の舗装復旧工事延長1,956m、渋江地内外においてJR石巻線横断管路更新外工事を大崎広域水道との合併施工により実施した。

・その他工事の整備

六軒町裏地内、渋江地内、北田地内、岸ヶ森西地内、菅の沢地内の水管橋及び配水管の布設替工事、舗装復旧工事、福沢地内の電磁流量計更新工事、菅の沢及び花勝山中継ポンプ交換工事を実施した。

ウ 収支の状況

平成29年度の事業収益は、営業収益390,475千円（前年度比8,201千円減、2.1%減）、営業外収益29,205千円（前年度比4,134千円増、16.5%増）の計419,680千円（営業収益の減少により、前年度比4,317千円減、1.0%減）であった。なお、給水収益は、383,808千円で、水道事業収益の91.5%（前年度91.1%）を占めた。

費用においては、営業費用372,357千円、営業外費用13,264千円で計385,621千円（前年度比2,696千円増、0.7%増）であった。

このうち、受託工事費及び特別損失を除く総括費用は385,621千円（前年度比8,371千円増、2.2%増）であった。

当年度の純利益は、34,059千円の計上となり、前年度に比べて7,013千円の減であった。

資本的収支においては、収入は27,245千円（うち仮受消費税123千円）、支出については142,132千円（うち仮払消費税7,719千円）で、収支不足額114,887千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額7,595千円、過年度分損益勘定留保資金30,301千円、当年度分損益勘定留保資金76,991千円で補てんした。

なお、経営収支の状況、経営分析等は、次のとおりである。

○事業収入に関する事項

(単位：円)

項目	年度	平成28年度	平成29年度	比較	
				増減	増減率 (%)
営業収益		398,676,120	390,474,912	△ 8,201,208	△ 2.1
営業外収益		25,071,384	29,204,899	4,133,515	16.5
特別利益		249,574	0	△ 249,574	皆減
収益合計		423,997,078	419,679,811	△ 4,317,267	△ 1.0
うち給水収益		386,070,394	383,807,796	△ 2,262,598	△ 0.6

○事業費に関する事項

(単位：円)

項目	年度	平成28年度	平成29年度	比較	
				増減	増減率 (%)
営業費用		368,898,391	372,356,698	3,458,307	0.9
営業外費用		13,871,534	13,264,415	△ 607,119	△ 4.4
特別損失		154,576	0	△ 154,576	皆減
費用合計		382,924,501	385,621,113	2,696,612	0.7
うち総括費用		377,249,925	385,621,113	8,371,188	2.2

当年度損益	41,072,577	34,058,698	△ 7,013,879	△ 17.1
-------	------------	------------	-------------	--------

$$\text{○収納率} = \frac{\text{現年度収入額 (397,768千円)}}{\text{給水収益 (調定額) (414,498千円)}} \times 100 = 96.0\%$$

(現年度収入額及び給水収益は税込額)

○経営成績の状況

(単位：%)

項目	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	同規模 団体指標
経常収 支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$	109.8	110.7	108.8	107.9
営業収 支比率	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$	107.4	108.1	104.2	95.1

※同規模団体指標の数値は、平成28年度水道事業経営指標による全国の平均値
(給水人口1.5万人以上3万人未満)

○支払利息の状況

(単位：千円)

項目 \ 年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
総費用(A)	390,423	382,925	385,621
支払利息(B)	14,565	13,872	13,264
(B) ÷ (A) × 100	3.7%	3.6%	3.4%

○企業債の状況

(単位：%)

項目 \ 年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	同規模 団体指標
$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{給水収益}} \times 100$	8.0	9.0	10.0	16.8
$\frac{\text{企業債利息}}{\text{給水収益}} \times 100$	3.7	3.6	3.5	4.8
$\frac{\text{企業債元金利息}}{\text{給水収益}} \times 100$	11.7	12.6	13.5	21.6

○年度毎企業債償還金の状況

(単位：千円)

項目 \ 年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
元金	34,703	37,488	39,463	40,722	43,003	44,744
利息	13,872	13,264	12,507	11,608	10,701	9,757
計	48,575	50,752	51,970	52,330	53,704	54,501

*平成30年度以降は見込み

○財務分析

(単位：%)

項目 \ 年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	同規模 団体指標	
自己資本 構成比率	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本} + \text{合計}} \times 100$	72.2	72.2	72.2	74.0
固定資産対 長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	89.9	89.4	89.7	85.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	484.7	447.5	362.0	471.8

(意見)

平成29年度の事業実績は、前年度対比で、年間総配水量が10,382 m³、率にして0.7%減、年間有収水量が9,315 m³、率で0.7%減となった。また、給水人口が249人減少したが、給水戸数が1戸増加している。

総収益は、419,680千円で、前年度より4,317千円、率にして1.0%減少している。総費用は385,621千円で、前年度より2,696千円、率にして0.7%増加している。有収率は84.7%で前年度と同率であり、結果、本年度は給水人口、収益ともに減少し、費用は増加したが、34,058千円の純利益を生じ、黒字計上となった。

気づいた点を以下に述べる。

- ① 会計は健全性を保っている。
- ② 有収率が昨年度同率の84.7%であり、努力の結果が出なかった事は残念である。来年度に向かい有収率向上策を検討される事を望む。
- ③ 建設改良事業において更新事業が多く見られることは、施設や設備の老朽化が進んでいる事と思われるので、更新計画の確実な実施とともに突発事故対応にも配慮を望むものである。当事業は町民生活に取って必要欠くべからざる事業であるので、会計の健全性ととともに確実なる事業実施を望む。

(2) 国民健康保険病院事業会計

○総括事項

本年度当初において、業務予定量を入院患者1日平均105人（前年度同数）、外来患者1日平均225人（前年度比45人減）とし、入院365日、外来244日、救急外来365日の診療を予定した。

診療体制においては内科・外科・泌尿器科・整形外科・眼科外来については週5日診療し、皮膚科・東洋医学外来については週2日、神経内科・物忘れ外来、心の外来については週1日、婦人科については月1日の診療を実施し、訪問診察についても244日、483件の診察を行った。

また、休日当番については、一次の診療を6回、二次の病院群輪番制の内科・外科を合わせ6回担当し、地域医療の確保に努めた。

ア 患者数の動向

○年間患者数・病床稼働率

(単位：人)

項目		年度	年間患者数	町内患者数	町内患者の割合 (%)
入院	平成29年度		35,041	24,346	69.5
	平成28年度		35,614	20,204	56.7
	比較	増減	△ 573	4,142	
		増減率 (%)	△ 1.6	20.5	
外来	平成29年度		52,837	39,551	74.9
	平成28年度		53,590	40,137	74.9
	比較	増減	△ 753	△ 586	
		増減率 (%)	△ 1.4	△ 1.5	
合計	平成29年度		87,878	63,897	72.7
	平成28年度		89,204	60,341	67.6
	比較	増減	△ 1,326	3,556	
増減率 (%)		△ 1.5	5.9		

上表のとおり、入院患者数は、年間延べ35,041人（前年度比延べ573人減、1.6%減）で、1日平均96.0人となり業務予定量を9.0人下回る実績となった。

一方、外来患者数においても、年間延べ52,837人（前年度比延べ753人減、1.4%減）で、1日平均216.5人となり、業務予定量を8.5人下回る実績となった。

また、救急外来で取り扱った患者数は延べ1,536人（前年度比延べ75人減、4.7%減）となった。

なお、町内の患者の占める割合は、入院において24,346人、69.5%（前年度比4,142人増、20.5%増）、外来では39,551

51人、74.9%（前年度比586人減、1.5%減）であった。

病床稼働率は、年平均79.3%で、前年度比1.3ポイント減となっている。

イ 収益的収入及び支出

入院収益は862,539千円（前年度比3,056千円増、0.4%増）、外来収益は746,229千円（前年度比32,604千円増、4.6%増）、医業収益計は1,792,744千円（前年度比968千円増、0.1%増）となった。

医業外収益については、256,069千円（前年度比44,399千円増、21.0%増）で、そのうち、補助金、負担金及び交付金が220,527千円を占めている。この結果、病院事業収益は2,048,813千円となり、前年度と比較して45,367千円（2.3%）の増となった。

病院事業費用においては、医業費用2,091,473千円（前年度比38,824千円増、1.9%増）、医業外費用は77,519千円（前年度比2,229千円減、2.8%減）、病院事業費用で2,170,076千円、前年度と比較して37,679千円（1.8%）の増加となった。

これにより121,263千円（前年度128,951千円の純損失）の当年度純損失を計上したため、前年度繰越欠損金1,028,142千円と合わせて、当年度未処理欠損金1,149,405千円を翌年度に繰り越した。

○事業収益・費用に関する事項

（単位：千円）

項目	年度			比 較		
	平成27年度 A	平成28年度 B	平成29年度 C	B/A	C/B	C/A
病院事業収益	千円 2,025,588	千円 2,003,446	千円 2,048,813	% 98.9	% 102.3	% 101.1
医業収益	1,759,401	1,791,776	1,792,744	101.8	100.1	101.9
医業外収益	266,187	211,670	256,069	79.5	121.0	96.2
特別利益	0	0	0	—	—	—

項目	年度			比 較		
	平成27年度 A	平成28年度 B	平成29年度 C	B/A	C/B	C/A
病院事業費用	千円 2,108,231	千円 2,132,397	千円 2,170,076	% 101.1	% 101.8	% 102.9
医業費用	2,035,405	2,052,649	2,091,473	100.8	101.9	102.8
医業外費用	72,826	79,748	77,519	109.5	97.2	106.4
特別損失	0	0	1,084	—	0.0	0.0
予備費	0	0	0	—	—	—
うち給与費（再掲）	1,142,470	1,198,997	1,226,174	104.9	102.3	107.3

当年度損益	△ 82,644	△ 128,951	△ 121,263
-------	----------	-----------	-----------

ウ 資本的収入及び支出

資本的収入においては、企業債12,600千円、出資金80,045千円、他会計補助金39,883千円、他会計負担金105,345千円の計237,873千円となった。

資本的支出については、資産購入費53,850千円、企業債償還金185,389千円の計239,239千円となった。

当年度の資産購入の主なものは、放射線医療画像管理システム（PACS）21,060千円、内視鏡システム一式10,643千円などで計53,850千円の購入となった。

なお、本年度末の企業債未償還金残高は976,279千円となっている。

エ 従事職員体制

診療体制については、前記総括事項で述べた診療科目に常勤医師9人（前年度比1人増）であった。看護部門においては、看護師67人（前年度比看護師2人減、保健師1人増、准看護師同数）、介護福祉士3人（前年度同数）であった。

技術部門においては薬剤師5人、放射線技師3人、検査技師3人、理学療法士5人、作業療法士3人、言語聴覚士1人、管理栄養士2人の計22人（前年度比1人増）で、事務部門においては8人（前年度比1人減）で、総数109人（前年度同数）で診療等を行った。

国保病院事業における経営分析結果の比率と年度間推移は、次表のとおりである。

○従事職員の推移

(単位：人)

職種 \ 年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	比較増減 H29-H28
医 師	9	9	8	9	1
看 護 部 門	57	66	71	70	△ 1
技 術 部 門	18	19	21	22	1
事 務 部 門	10	10	9	8	△ 1
合 計	94	104	109	109	0

各年度末

○経営分析

項目	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備 考
	(%)					
経常収支比率	(%)	92.3	96.1	94.0	94.4	高い程よい
医業収支比率	(%)	86.6	86.4	87.3	85.7	
流動比率	(%)	118.8	111.0	104.8	100.6	
医師1人1日当たりの診療収入	(円)	524,871	481,254	486,729	470,951	数値は関連させて検討する必要あり
看護師1人1日当たりの診療収入	(円)	77,188	65,836	68,578	71,666	
入院患者1人1日当たりの診療収入	(円)	24,172	23,935	24,133	24,615	
外来患者1人1日当たりの診療収入	(円)	12,337	12,967	13,316	14,123	
医師1人1日当たりの患者数	(人)	32.0	28.5	27.6	25.7	
看護師1人1日当たりの患者数	(人)	4.7	3.9	3.9	3.9	
病床稼働率	(%)	73.0	73.4	80.6	79.3	高い程よい
外来対入院患者比率	(%)	190.4	181.8	150.5	150.5	
職員給与費対医業収益比率	(%)	51.3	54.9	56.4	58.2	小さい程よい
薬品費対医業収益比率	(%)	24.8	24.9	22.4	23.0	

○経費の前年度対比

(単位:円)

項目	年度	平成28年度	平成29年度	比較増減	増減率 (%)
経 費		240,902,213	251,806,978	10,904,765	4.5
内 訳	厚生福利費	2,073,048	2,036,152	△ 36,896	△ 1.8
	旅費交通費	4,513,959	3,911,435	△ 602,524	△ 13.3
	職員被服費	759,605	888,805	129,200	17.0
	消耗品費	12,689,145	11,977,759	△ 711,386	△ 5.6
	消耗備品費	351,071	275,294	△ 75,777	△ 21.6
	光熱水費	31,892,410	34,030,463	2,138,053	6.7
	燃料費	9,313,961	12,246,255	2,932,294	31.5
	食糧費	369,709	238,034	△ 131,675	△ 35.6
	印刷製本費	609,800	894,400	284,600	46.7
	修繕費	8,993,535	11,482,728	2,489,193	27.7
	保険料	2,805,953	2,702,056	△ 103,897	△ 3.7
	賃借料	22,186,722	20,723,188	△ 1,463,534	△ 6.6
	通信運搬費	2,010,913	1,960,265	△ 50,648	△ 2.5
	委託料	135,103,552	140,902,154	5,798,602	4.3
	諸会費	3,361,670	3,228,319	△ 133,351	△ 4.0
	交際費	406,217	340,354	△ 65,863	△ 16.2
雑費	3,460,943	3,969,317	508,374	14.7	

○補助金、負担金の状況

(単位:千円)

項目		年度	平成28年度	平成29年度	比較増減	増減率(%)	
○収益的収入							
医業収益	一般会計負担金		122,904	88,280	救急医療及び保健衛生行政	△ 34,624 △ 28.2	
医業外収益	補助金		14,224	14,313		89 0.6	
	一般会計補助金		0	0		0 -	
	その他の補助金		14,224	14,313	病院群輪番制補助金	1,908	89 0.6
					休日診療運営費補助金	613	
					受入困難補助金	233	
					国保特別調整交付金(直診保健事業)	6,000	
					へき地医療	0	
					国保特別調整交付金(医師・看護師確保対策)	1,000	
					国保特別調整交付金(救急患者受入体制支援事業)	3,438	
					介護予防事業委託金	1,047	
					町村会研修事業負担金	74	
		負担金交付金		156,334	206,214		49,880 31.9
	一般会計負担金		156,334	206,214		49,880 31.9	
	老健施設会計負担金		0	0		0 -	
	訪問看護会計負担金		0	0		0 -	
	小計		293,462	308,807		15,345 5.2	
○資本的収入							
他会計補助金			2,700	39,883	国保特別調整交付金	37,183 1,377.1	
			2,700	0	直営診療施設整備事業(医療機器)	△ 2,700 皆減	
			0	39,883	直営診療施設特別事業(医療機器)	39,883 皆増	
			5,822	0	みやぎ環境交付金	△ 5,822 皆減	
他会計負担金		100,145	105,345			5,200 5.2	
小計		108,667	145,228			36,561 33.6	
合計		402,129	454,035			51,906 12.9	

オ 補助金、負担金

補助金においては、3条予算に係る医業外収益として、14,313千円の交付を受け、病院事業収益全体に占める割合は、0.7%であった。

3条予算に係る負担金については、地方公営企業法第17条の2(経費の負担の原則)に基づいて、基準内繰入金として294,494千円を繰り入れ、うち、医業収益として88,280千円、医業外収益として206,214千円を受けている。病院事業収益全体に占める割合は14.4%であった。

4条予算に係る補助金としては、経営合理化のために要した費用、39,883千円の交付を受けた。

なお、3条予算に係る補助金・負担金の状況は、上表のとおりである。

カ 棚卸し状況

(単位：円)

項 目	金 額
平成 2 9 年 4 月 1 日 期 首 在 庫 額	10,955,709
年 度 内 購 入 額	465,159,503
年 度 内 費 用 額	465,088,509
年 度 内 資 産 減 耗 額	797,904
平成 3 0 年 3 月 3 1 日 期 末 在 庫 額	10,228,799

貯蔵品については、平成 2 5 年度に更新した SPD（医薬品・診療材料等在庫管理システム）により、不働在庫を早期に把握し、医薬品、診療材料等の適正な在庫管理を行い、購入額減少により経費削減が図られた。

キ 備品（医療機器等）の管理状況

各種医療用機器は、適切な保守点検によって管理運用がされ、車両とともに減価償却において定額法に従って整理の上、処理されている。

なお、本年度の新規備品としては、前述ウで記載のとおり新たに 5 3, 8 5 0 千円相当が固定資産として購入された。

(意 見)

平成 2 9 年度の業務量は、年間延べ入院患者数が 3 5, 0 4 1 人（1 日平均 9 6. 0 人となり予定量より 9. 0 人減）であり、対前年度比 5 7 3 人の減、1. 6 % の減少である。また、年間外来延べ患者数は 5 2, 8 3 7 人（1 日平均 2 1 6. 5 人となり予定量より 8. 5 人の減）であり、対前年度比 7 5 3 人、1. 4 % の減少である。入院収益は 8 6 2, 5 3 9 千円で、対前年度比 3, 0 5 6 千円、0. 4 % の増加、外来収益は 7 4 6, 2 2 9 千円で、対前年度比 3 2, 6 0 4 千円、4. 6 % の増加であり、医業収益合計で 9 6 8 千円、0. 1 % の増加となり、その結果収益的収入は、対前年度比 4 5, 3 6 7 千円、2. 3 % の増加で、収益的支出は、対前年度比 3 7, 6 7 9 千円、1. 8 % の増加となり、収支において当年度純損失 1 2 1, 2 6 3 千円の赤字計上となった。

気づいた点を以下に述べる。

- ① 今年度においても収支が改革プランの数値に届かなかった事は誠に残念である。今後は、目標達成に向け更なる努力を望むとともに改革プランの数値の修正を含む、より実態に即した目標設定を検討されたい。
- ② 外来患者数の目標と実績においては、各科とも年間目標値に達せず誠に残念である。今後は、入院・外来ともに目標達成に向かって院内挙げ

での重要検討課題とされることを望む。

特に整形外科外来患者数においては、減少傾向が続いている。平成24年度の患者数に比較すると、平成29年度患者数は53.9%であり、また、当年度対目標達成率は58.5%である。また、眼科外来患者数も対前年度では微増しているが、週二日診療時よりも少なく、当年度対目標達成率39.2%と二科ともに誠に遺憾である。

医療スタッフは、概ね充足しているが、医師、薬剤師など不足が報告されている。また、医師の高齢化が伺われるので、今後は、これらを検討の上、適正数の人員確保に更なる努力を望む。

- ③ 救急車、救急患者受け入れについて、ともに年間受入数を平成24年度と比較すると、救急車で62.2%、患者数で49.9%まで減少している。この事は、病院経営上大きな影響を与えていると思われるので改善に向けて、深い検討を望む。
- ④ 一般会計からの基準外の繰り入れ等にかかる協議内容について、事務レベル、政治レベルともに記録すべきである。昨年度も同様の指摘をしたが、その改善が見えなかったため、実現の為の検討を強く望む。
- ⑤ 備品購入においては、新規購入はなく、すべて更新である。この事は、施設及び設備の老朽化が進んでいる証左であると思われるので、今後とも堅実な更新計画を以て、経営に影響のないよう事業実施されたい。

(3) 老人保健施設事業会計

○総括事項

本年度の業務予定量を1日平均入所者79人（前年度同数）、通所者については、介護給付30人（前年度同数）及び新予防給付12人（前年度同数）の計42人（前年度同数）、入所365日、通所310日として事業運営を予定とした。

ア 利用者の動向

入所利用者数は、年間延べ28,705人（前年度比29人増、0.1%増）、1日平均78.6人（前年度同数）で、業務予定量を0.4人下回る実績となった。

通所利用者は、年間延べ11,086人（前年度比170人増、1.6%増）、1日平均35.8人（前年度比0.8人増）で、業務の予定量を6.2人下回る実績となった。

なお、町内の入所者は、22,854人で全体の79.6%を占め、通所者は9,154人、82.6%であった。

入所者定員利用率は98.3%で、前年度より0.1ポイントの増となった。これら年間利用者の数値は、次表のとおりである。

○年間利用者数

(単位：人)

年度		項目	年間利用者数	町内利用者数	町内利用者の占める割合(%)
入所		平成29年度	28,705	22,854	79.6
		平成28年度	28,676	22,152	77.2
	比較	増減	29	702	
		増加率(%)	0.1	3.2	
通所		平成29年度	11,086	9,154	82.6
		平成28年度	10,916	8,633	79.1
	比較	増減	170	521	
		増加率(%)	1.6	6.0	
合計		平成29年度	39,791	32,008	80.4
		平成28年度	39,592	30,785	77.8
	比較	増減	199	1,223	
		増加率(%)	0.5	4.0	

イ 収益的収入及び支出

老健事業収益については、入所収益358,687千円、通所収益116,001千円、その他事業収益及び事業外収益等18,420千円、計493,108千円（前年度比6,852千円増、1.4%増）で、老健事

業費用においては、事業費用504,933千円、事業外費用10,022千円、計514,955千円（前年度比15,552千円増、3.1%増）となり、収支で21,847千円の純損失（前年度13,147千円の純損失）の計上となった。

この結果、前年度繰越欠損金138,059千円と合わせて、当年度未処理欠損金159,906千円を翌年度に繰り越した。

○事業収益・費用に関する事項

（単位：千円）

項目	年度 平成27年度 A	平成28年度 B	平成29年度 C	比 較		
				B/A	C/B	C/A
老健事業収益	千円 490,978	千円 486,256	千円 493,108	% 99.0	% 101.4	% 100.4
事業収益	476,250	471,568	477,192	99.0	101.2	100.2
事業外収益	14,728	14,688	15,916	99.7	108.4	108.1
特別利益	0	0	0	—	—	—

項目	年度 平成27年度 A	平成28年度 B	平成29年度 C	比 較		
				B/A	C/B	C/A
老健事業費用	千円 487,967	千円 499,403	千円 514,955	% 102.3	% 103.1	% 105.5
事業費用	475,838	488,308	504,933	102.6	103.4	106.1
事業外費用	12,129	11,095	10,022	91.5	90.3	82.6
特別損失	0	0	0	—	—	—
うち給与費(再掲)	319,031	331,880	346,158	104.0	104.3	108.5

当年度損益	3,011	△ 13,147	△ 21,847
-------	-------	----------	----------

ウ 資本的収入及び支出

資本的支出においては、建設改良費4,212千円、資産購入費2,595千円及び企業債償還金26,374千円の計33,181千円となり、不足額33,181千円については、過年度分損益勘定留保資金で補てんした。

エ 従事職員体制

職員体制については、専任として看護師10人、准看護師3人、理学療法士1人、作業療法士3人、管理栄養士1人、介護福祉士11人、事務職2人の計31人で、その他嘱託及び臨時職員を含め66人で業務に当たった。

これらに伴う事業の経営分析結果の前年度比較状況は、次表のとおりである。

○経営分析

項目	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備 考
経常収支比率	(%)	102.2	100.6	97.4	95.8	高い程よい
事業収支比率	(%)	102.4	100.1	96.6	94.5	
流動比率	(%)	332.8	285.9	242.6	163.2	
入所1人当たり平均単価	(円)	12,585	12,465	12,433	12,496	数値は関連させて検討する必要あり
通所1人当たり平均単価	(円)	10,233	10,146	10,296	10,464	
看護師・介護員1人1日当たり入所介護収入	(円)	41,331	41,004	36,972	34,987	
看護師・介護員1人1日当たり通所介護収入	(円)	35,596	34,385	34,895	31,816	
看護師・介護員1人1日当たり入所者数	(人)	3.3	3.3	3.0	2.8	
看護師・介護員1人1日当たり通所者数	(人)	3.5	3.4	3.4	3.0	
ベット利用率	(%)	98.5	98.7	98.2	98.3	高い程よい
職員給与費対事業収益比率	(%)	53.7	58.1	61.1	61.0	小さい程よい
介護用品（医薬品・医療用消耗品・おむつ代）対事業収益比率	(%)	2.7	2.6	2.7	2.5	

○経費の前年度対比

(単位:円)

項目		年度	平成28年度	平成29年度	比較増減	増減率 (%)
経 費			89,675,274	92,318,325	2,643,051	2.9
内 訳	厚生福利費		645,715	732,431	86,716	13.4
	報 償 費		30,000	30,000	0	0.0
	職員被服費		582,498	348,589	△ 233,909	△ 40.2
	消 耗 品 費		3,638,940	3,733,348	94,408	2.6
	消 耗 備 品 費		108,942	248,355	139,413	128.0
	光 熱 水 費		11,744,837	11,875,247	130,410	1.1
	燃 料 費		8,790,070	11,130,410	2,340,340	26.6
	食 料 費		0	6,778	6,778	皆増
	印 刷 製 本 費		54,000	58,104	4,104	7.6
	修 繕 費		2,735,794	3,299,507	563,713	20.6
	保 険 料		797,919	774,764	△ 23,155	△ 2.9
	賃 借 料		11,219,444	11,912,269	692,825	6.2
	通 信 運 搬 費		575,611	614,159	38,548	6.7
	委 託 料		46,142,638	45,202,134	△ 940,504	△ 2.0
	諸 会 費		246,000	246,000	0	0.0
雑 費		2,362,866	2,106,230	△ 256,636	△ 10.9	

経費総額は92,318千円（前年度89,675千円）で、燃料費修繕費の増額があり、前年度比2,643千円、2.9%増となった。総事業費に占める割合は、17.9%（前年度18.0%）で、0.1ポイントの減となった。

なお、経費内訳の前年度対比は、上表のとおりである。

(意見)

平成29年度の業務量は、入所28,705人(前年度比29人、0.1%増)、通所11,086人(前年度比170人、1.6%増)で、合計39,791人(前年度比199人、0.5%増)となった。

収益的収支においては、事業収益493,108千円、事業費用514,955千円となり、当年度純損失21,847千円であった。

気づいた点を以下に述べる。

- ① 当年度損益21,847千円の赤字は、二年連続の赤字であり、更に本年度は、減価償却前でも2,428千円の赤字であり誠に残念である。利用者数や収益とも増加しているがそれ以上に費用の増加が上回った。要因としては、インフルエンザ施設内感染による在宅復帰率の加算が取れなかった事、人事異動、ベースアップ等による給与費の増加やA重油の高騰等が考えられるので、今後とも経費削減等に努め、経営健全化に向けた努力を望む。
- ② 当施設の事業内容は充実されていると思料され、利用者やその家族とともに町民にも好評価を得ているので、今後とも事業の充実に努力されたい。
- ③ 備品購入5件のうち、新規購入2件、更新3件であり、この事から、やはり施設や設備の老朽化が進んでいると思われるので、今後とも経営に影響を及ぼさない様な堅実な更新計画を以て、事業にあたられたい。

(4) 訪問看護ステーション事業会計

○総括事項

業務予定量は、1日平均利用者数を平日33人（前年度同数）土曜3人（前年度比3人増）とし、訪問看護293日（平日244日、土曜49日）を予定した。

また、24時間緊急連絡体制を継続して実施し、利用者ニーズに応えた。

ア 利用者の動向

訪問看護は、年間延べ3,349人（平日3,262人、土曜87人、前年度比19人増、0.6%増）1日平均11.4人（平日13.4人、土曜1.8人、前年度比1.1人減、8.8%減）で、訪問リハビリについては、年間延べ3,477人（前年度比150人減、4.1%減）、1日平均14.3人（前年度比0.6人減、4.0%減）で、合計延べ6,826人となり、1日平均業務予定量は、平日5.3人、土曜1.2人下回った。

○訪問看護ステーション保険別利用内容状況

（単位：人）

保 険 別		訪 問 延 人 数		対前年度比較	
		平成28年度	平成29年度	増 減	増減率(%)
介護保険	訪 問 看 護	2,337	2,207	△ 130	△ 5.6
	リ ハ ビ リ	2,699	2,444	△ 255	△ 9.4
医療保険	訪 問 看 護	993	1,142	149	15.0
	リ ハ ビ リ	928	1,033	105	11.3
訪 問 看 護 計		3,330	3,349	19	0.6
リ ハ ビ リ 計		3,627	3,477	△ 150	△ 4.1
合 計		6,957	6,826	△ 131	△ 1.9

イ 収益的収入及び支出

収益的収入においては、事業収益及び事業外収益で57,973千円（前年度58,174千円）、収益的支出については事業費用59,113千円（前年度55,325千円）で、当年度純損失1,140千円（前年度純利益2,849千円）の計上となった。

また、総事業費用59,113千円のうち、主たる費用は給与費54,348千円（前年度50,095千円）で費用全体の92.0%（前年度90.5%）を占めている。

その結果、前年度繰越利益剰余金39,845千円と合わせて未処分利益剰余金は、38,705千円となり翌年度へ繰り越した。

○事業収益・費用に関する事項

項目	年度			比 較		
	平成27年度 A	平成28年度 B	平成29年度 C	B/A	C/B	C/A
訪問看護事業収益	千円 56,083	千円 58,174	千円 57,973	% 103.7	% 99.7	% 103.4
事業収益	55,948	57,802	57,880	103.3	100.1	103.5
事業外収益	135	372	93	275.6	25.0	68.9
特別利益	0	0	0	—	—	—

項目	年度			比 較		
	平成27年度 A	平成28年度 B	平成29年度 C	B/A	C/B	C/A
訪問看護事業費用	千円 54,455	千円 55,325	千円 59,113	% 101.6	% 106.8	% 108.6
事業費用	54,455	55,325	59,113	101.6	106.8	108.6
事業外費用	0	0	0	—	—	—
特別損失	0	0	0	—	—	—
うち給与費(再掲)	50,033	50,095	54,348	100.1	108.5	108.6

当年度損益	1,628	2,849	△ 1,140
-------	-------	-------	---------

ウ 従事職員体制

従事職員は、看護師4人、理学療法士2人、作業療法士1人の7人、その他臨時看護職員1人、嘱託事務職員1人で業務に従事した。

これに伴う事業の経営分析結果の前年度比較状況は、次表のとおりである。

○経営分析

項目	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備 考
	経常収支比率 (%)		106.9	103.0	105.2	
事業収支比率 (%)		106.7	102.7	104.5	97.9	高い程よい
流動比率 (%)		3,422.5	3,184.1	3,282.0	2,881.9	
職員1人1日当たり事業収入 (円)		35,334	32,756	33,981	32,943	
利用者1人1日当たり事業収入 (円)		8,729	8,204	8,308	8,479	
看護職員1人1日当たり利用者数 (人)		3.4	3.3	3.4	3.3	
リハ職員1人1日当たり利用者数 (人)		5.0	5.0	5.0	4.8	

(意 見)

平成29年度の業務量は、訪問看護、訪問リハビリ合わせて6,826人で、1日平均は業務予定量より、平日5.3人、土曜1.2人下回った。

収益的収支においては、事業収益57,973千円、事業費用59,113千円で、当年度純損失1,140千円となった。

気づいた点を以下に述べる。

- ① 本年度決算での赤字計上は平成23年度以来であるが、要因としては人員配置にあると思われるので、来年度には平準化され、好転するものと思われる。

- ② 事業については利用者や家族、町民から好評価を得ているので、今後とも事業の充実とPRの手法を工夫されたい。